

中高層マンションでの “総合防災力” 向上を目指して ～在宅避難生活と安否確認の定着化～

千葉県習志野市 パークグランディエデナ自主防災会
会長 松田 輝雄



1 はじめに

私たちが暮らすパークグランディエデナは、東京からJRや京成線で1時間弱の千葉県北西部の習志野市にあり、2003年竣工の4棟からなるマンションに461世帯、約1,300名の住民が暮らしています。

住民の暮らしを地震その他の災害による被害の防止、軽減を図るため、4棟が一体化し共助の精神に基づいて、以下に示す自主的な防災活動を行う自主防災会を組織しています。

- (1) 防災に関する情報の収集と知識の普及・啓発
- (2) 防災訓練の実施
- (3) 地震等の発生時における情報収集・伝達、避難、初期消火等の仕組作り
- (4) 防災資機材等の備蓄・管理等



パークグランディエデナの外観と居住棟の構成

2 在宅避難をベースとした「防災マニュアル」の作成と水平展開

災害発生時の具体的な取組・行動をまとめた「防災マニュアル」を作成し、各戸への配布を行うとともに防災セミナーなどを開いて啓発をしてきました。

このマンションが位置する地域は、東京か

ら流入する方も増えマンションなども増えています。一方、災害発生時の避難場所としては近隣の小学校1箇所しかないのが実情です。そこで、「防災マニュアル」では、震度5強～6クラスの地震発生時に以下のような被害状況を想定し、在宅避難をベースとした対応を策定しました。

- (1) 電気、ガス、水道が停止し、公共サービス(消防、下水道、ごみ収集)も停止もしくは利用が制限される
- (2) 建物はひび割れ等の被害は発生するが、「在宅避難生活」が可能
- (3) 発生が日中なら帰宅困難者が多数、深夜なら初動対応(安否確認等)が難渋する
- (4) 社会的な混乱による防犯上の不安



防災セミナーの実施状況

3 安否確認の仕組みと定着化

災害発生時の安否確認については、世帯ごとに安否や避難の状況を予め配布してある安否確認シートに記入してもらい、これを各戸のドアの外に張り出してもらうことにしました。自主防災会を中心としたボランティアメンバーでこれを回収、集計する仕組みを作りました。この時、回収に当たっては限られた

人数で可能とし、また、集計も短時間で処理ができるように配慮しました。訓練を通して、この仕組みがキチンと働くことを確認するとともに、更なるブラッシュアップに努めています。



安否確認シートの回収作業



安否確認データの入力作業

4 防災井戸の設置と機材の購入

在宅避難では、ライフラインが停止することが一番のリスクとなります。特に電気が停止することで、マンション内の給水システムも止まってしまう。

こうした事態に対応するため、構内に生活用水確保を目的として防災用の井戸を設置しました。また、カセットポンプを使った発電機を導入し、停電時においても井戸の揚水ポンプを稼働できるようにし



防災井戸水の搬送風景

ました。飲料水は各家庭で用意して頂きますが、生活用水はこの井戸で補助できます。井戸水の水質は年に1回の精密検査、そして、自主防災会による年4回の簡易検査で確認しています。この発電機は、井戸水のポンプを動かす以外に、停電時における各棟エントランス付近の夜間照明の電源にもなります。

5 課題解決へのチャレンジと成果 (揚重装置の開発)

ここで課題となるのが井戸からの生活用水をどうやって各戸に供給するかという事です。

低層部の世帯では各自が持つて行くことも可能ですが、高層部はどうか、また、ご高齢の世帯もあります。



揚重装置の操作風景

こうした、課題に住民のアイデアで滑車を用いた引き上げ機（揚重装置と呼んでいます）を開発しました。DIYのお店で手に入る資材を組み合わせた手作りの装置です。各棟の外部階段の隙間を利用して2Lのペットボトル4個を1回に運べます。実際に引き上げる練習を自主防災会の役員が中心となり、住民に啓発活動を図っております。

6 おわりに

当マンションで行われている防災活動の一端についてご紹介しました。基本的には、自分たちの生活をいかに自分たちで守るかという視点に立ち、各棟バラバラでなく、4棟が一体化して、災害発生時に共助の体制を築いていくことが大切だと考えています。

これからも、作り上げた仕組みを常に点検、リニューアルしていくこと。そして、マンション全体に如何にして広げていくかということに努めることが大事だと考えています。